

作文って
何を書いていいのが
わからない...

長文を書くのが苦手!

文章を書くのに
時間がかかる

上達のヒントは、身近なところにあり!!

「メール」を送る感覚で、

気軽に作文を書いてみよう!

文章を書くことが苦手で、ストレスを感じている人は、少し難しく考えすぎてしまっているのかもしれない。今回は、手軽なコミュニケーション手段である「メール」を題材に、作文の書き方を紹介します。

メールすら
書けるけど
作文となると...

作文の書き方の
コツはあるの?

「よく書いてるね」って
言われた!

ふだんメールでやり取りをするのは好きですが、作文を書くのが大の苦手です。どうしたら作文嫌いを克服できるでしょうか。



監修

佐竹 秀雄 (当協会 現代語研究室 室長)



国立国語研究所室長、武庫川女子大学言語文化研究所長を歴任。専門は現代語の表記論、文章論、言語行動論。『文章を書く技術』(ベレ出版)、『デイリーコンサイス国語辞典』(三省堂)ほか著書、編著書多数。

◆作文とメール

多くの人が、作文は嫌いだと思います。そして、その理由はうまく書けないからだと言います。しかし、そういう人も書くこと自体は嫌いではないと思います。ほとんどの人が携帯電話やスマホのメールで文章を作っていますが、書くことが本当に嫌いなら、メールも書かないはずだからです。

では、作文とメールとは何が違うのでしょうか。作文の場合、次の点で違いがあります。**A 相手はつきりしない** メールは書く相手はつきりしていません。作文の場合、特に学校で書く作文は先生が読んでくださいますが、先生にあてて書くイメー

ジはありません。要するに、作文は相手はつきりしません。**B 自分が伝えたいことがない** メールは言いたいことがあって書きます。でも、作文は、特に書きたいことがない場合も多いでしょう。また、メールではどうでもいようなことを書いていますが、作文では立派なことを書かないといけないと思いがちです。

C 長く書かなくてはいけない メールは、一語ですむこともありますが、作文はそうはいきません。先生方も長く書くことを指導されます。

◆やる気を出すために メールだったら文章を作れるのに、作文は嫌だということですから、以上の三点こそが、作文嫌いを作り上げていると考えられます。いわば、作文の書く気をなくしている、犯人なのです。ですから、作文におけるやる気を出すためには、この三点に対する手当てをすればいいのです。順番に解決策を考えてみましょう。

A 相手がいらない 読者を想定しましょう。一番簡単なのは、先生です。あるいは、友人や知人でもいいでしょう。しかし、テーマによってはそれができないことがあります。それに、特定の個人を想定すると、手紙のような文章になってしまいます。そこで、お勧めは新聞の投書のイメージです。新聞の読者である一般の人に向かって書く、つまり、投書するつもりで書くのです。

B 伝えたいことがない この原因は、前述のように、立派なことを書かないといけないと思っている意識にあります。作文は文章を書く練習です。例えば、音楽の時間に合唱の練習をするとき、最初から上手になってから人前で歌います。それと同じことで、いきなり立派な内容の文章を書けるはずはないし、書く必要なんかありません。練習なのですから、伝えることは小さなことでいいのです。自分の伝えたいことを正直に考えてみましょう。

C 長く書けない まず短くてもよいと考えましょう。そして、書きあげたら読み返してください。そのとき、相手が新聞の読者、つまり、自分が知らない人だということを思い出してください。相手は自分のことについて何も知らないのですから、くわしく丁寧に説明しないと通じません。説明を省けないか、省略していることはないかを考えて、それらを補います。すると、文章はどんどん長くなります。

文章検

「文章能力」を測ってみよう

→平成27年度検定日程は裏表紙に掲載

すべての教科学習の基礎になり、入試や就職でも重要な「文章能力」。文章検で力を伸ばそう!

文章検は、これまで定義が曖昧だった「文章能力」を「基礎力」「読解力」「作成力」の3つの力に分類し、それぞれの知識・能力を測る新しい検定です。あなたは文章から正しく情報を読み取ることができていますか?読み手に意図が正確に伝わる文章が書けていますか?まずは文章検で自分の「文章能力」を知りましょう。強み・弱みを知れば、自分で「文章能力」を伸ばすことができます。

どこで受検できるの?

文章検は漢検協会が認定した準会場で受検できます。学生・生徒の方は通っている学校や塾などにお問い合わせください。

漢検準会場ご担当者様

漢検準会場に認定されている団体は、文章検が実施できます。文章検の詳細な資料はホームページまたはフリーコールよりご請求ください。

フリーコール: 0120-509-315
<http://www.kanken.or.jp/bunshoken/>